

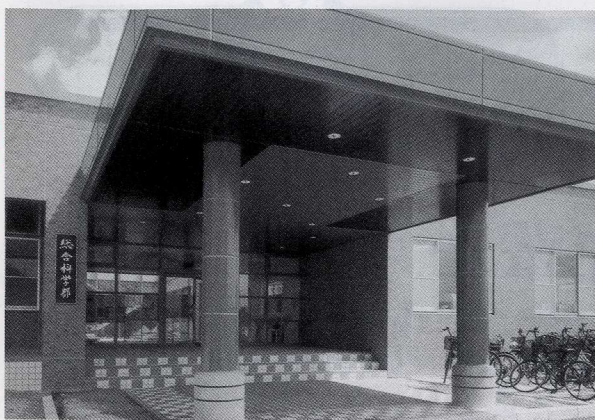
新しい時代のない手を目指せ

総合科学部長 ◆ 渡部 三雄



総合科学部に入学された新入生の皆さん、入学おめでとう。
総合科学部は、今年創立二十周年を迎える。皆さんとほぼ同じ年令の、若い学部である。皆さんと同じように、若さゆえの未熟さはあるが、未来への夢と希望に満ちた魅力にあふれている。このような新しい学部を選び、入学してきた皆さんを、私たちはまず心から歓迎する。

二十世紀における科学・技術の発展は、人類に高度の文化的生活をもたらしたが、同時にまた、地球規模での環境破壊など、危機的状況も作り出した。



総合科学部支関

人類はいま、この大きなつげに悩まされている。エネルギーや食糧資源の問題も深刻である。また、政治、経済の面でも、世界中をまき込む大きな変化が起きている。新しい国際関係、平和問題などについての模索が続けられている。

二十一世紀に向けて解決をせまられているこれらの課題の多くは、人文科学、社会科学、自然科学という、従来の個別科学の枠内では取り扱いきれないものである。

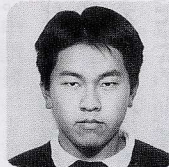
このような、複雑・多岐にわたる、しかも、グローバルな課題解決への社会の要請に応えるため、総合科学部は、既存の学問分野の枠にとらわれない、総合的・学際的な新しい学問の道を切り拓く努力を続けている。

これらの困難な問題に立ち向かうためには、まず基礎的な学問を十分に身につけると同時に、広い視野を持つことも必須である。なかなか大変な仕事であるが、やりがいがあることは間違いない。若い情熱をもってこれらの課題に取り組んでほしい。

君たちが新しい時代のない手を目指して努力するとき、私たちは、道案内役として、また、ともに道を切り拓くパートナーとして、協力を惜しまない。(わたべ・みつお)

常に熱意を持って

総合科学部学生 ◆ 吉谷 仁志



新入生の皆さん、広島大学総合科学部に入学おめでとう。皆さんは合格して入学手続きを済ませ、高校生活最後の思い出を作っていた間に、この広大総科というところに対してどのような想いを巡らせていたのだろうか。自分が総科に入学して思うに、広島大学、特にこの総科という学部は、一言で語るにはあまりに難解で、一人で語るにもあまり

詩人ワーズワスの大学入学

文学部長 ◆ 湯浅 信之



新入生諸君、入学おめでとう。これから諸君と一緒に学ぶことを楽しみにしている。

今日は手始めに、英国の有名な詩人ウィリアム・ワーズワスが、「序曲」という自伝的作品のなかで、大学入学について語っていることを述べて、諸君の歓迎の言葉に代えたい。

ワーズワスは、英国の北西部にある湖畔地方の出身で、ケンブリッジ大学に入学したのは一七八七年のことである。当時の交通機関である二頭立ての馬車で大学に近づくと、まず彼の目に入ったのは、キングズ・コレッジの礼

に多様なところである。ところが、だからこそ確実に言えることがある。それは、「大学生活を生かすも殺すも本人の熱意次第」ということである。皆さんのなかには、大学生活の四年間をわりと長いものだろうと思っている人もいるかもしれない。確かに、大学生活を何もしないで過ごそうと思う人には、四年間は長いだろう。ところが、皆さんがこの大学生活の四年間でしかできない、大きな熱意を傾けられる「何か」を見つけた時、四年間という期間は、あまりにも短かすぎると感じるはずである。その「何か」に、皆さんが一刻も早く出会えることを心から願っている。(よしたに・ひとし)

拝堂の尖塔であった。

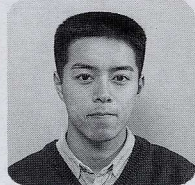
次に彼の目に止まったのは、ガウンを着た学生の姿である。この時、「私は心を躍らされ、胸は一杯だった」と言っている。それから暫くは「すべてのものが夢であった」とも言っている。

ケンブリッジ大学の「古色蒼然たる構内や偉大な知性の庭園」は、彼の心を酔わせたであろう。「偉大なニュートンの神のような頭脳」も、ここにいたと考えれば当然のことである。

しかし、そのうちに、彼は「憂鬱な気分」に取り憑かれ、「試験による栄光など、欲しくない」と思うようになって

「もの」ではなく「人間」を

文学部学生 ◆ 上野 哲



失恋するのはとても辛い、「人間」に本気で接する恋愛は、この上なく素晴らし。私にとって生まれ初めて失恋は、大学一年の夏に訪れた。新しい大学生活を満喫していた私は、文字どおり、砂を噛むような思いを味わったが、「人間」を一生懸命理解しようとした失恋に至るまでのプロセスは、今思い出しても、



新設された文学部校舎 (講義棟の屋根の先端には、英国製の風見鶏が取り付けられ、文学部の未来を見据えている)

とても楽しいものだった。

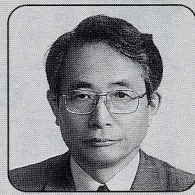
私たち大学生には時間がたくさんある。車もいい、ファッションに凝るのも楽しい。けれども、人間と真剣に接することは最高に面白い。

結果が絶交であっても、今、友人を大切にしたい。結果が破局であっても、今、恋人を愛したい。今、この世に生きている人間に、常に関心を持ち続けること、このことを、私たちはもっと意識してもいいのではないだろうか。

「人間」から逃げることなく「人間」にこだわり続けながら、この広島大学での学生生活を、私たちと一緒に思いきり楽しもう。(うえの・てつ)

つらい目に会わぬ人間は教育されぬ

教育学部長 ◆ 小笠原 道雄



人それぞれになかなか忘れることのできぬことばとかメロデーとか情景が、人生にはあるものだ。私にとって、

表題のことばはその類いのものである。その出会いは、

たしか、大学三年生の時であった。世界の自叙伝の最高作のひとつに

数えあげられるゲーテの「詩と真実」第一部の導入に、

このギリシヤの喜劇作家ネナンドロスのことばが引用されているの

だが、当初は、「つらいことをいろいろ体験しないと一人前になれないのか」程度の理解であった。しかし本書の眼目は、一人の青年ゲ



教育学部の前身広島高等師範学校初代校長 北条時敬先生の銅像の前で今日も語り合う学生たち

テが、時代と歴史の諸要請に対応して、自己の個性を担いながら自己形成を果たし、自己発展を遂げる姿を人間の生活と発展において叙述したもので、

冒頭の一文も、その導入として理解されるべきものである。ゲーテの青年期は、もっぱら、「自己形成による自己解放」として詩作を中心

に考えられてきたのであるが、本年、広島大学教育学部に入学さ

れた諸君が、何を中心に「自己形成による自己解放」を図るのか、それを私たちは、じっくり見守りたく思っている。

(おがさわら・みちお)